

ミャンマーゼミ合宿 報告書

2018年9月3～11日の期間、教育学科国際教育開発学専攻、小松ゼミで小松太郎教授引率のもとミャンマーにて、研究合宿を行いました。ミャンマーではヤンゴンとタウンジーという地域に滞在し、それぞれの地域でイエズス会系の教育施設や学校を訪れ、ミャンマー社会における教育の役割について学びました。ヤンゴンでは、イエズス会系のいくつかの学校を訪問し、軍事的支配から民主化へと移行しているミャンマー社会における学校の意義についての議論が行われました。ミャンマー中部の都市タウンジーでは、St Aloysius Gonzaga (SAG) Institute of Higher Studiesの学生と貧困地域の子どもたちへのコミュニティ活動を、企画から実際の活動までを共に行いました。また、学生が行っている活動の一つである、村の環境調査及びゴミ処理啓発活動にも同行し、村のゴミ処理の現状についての視察を行いました。最終日にはヤンゴンにあるJICAの事務所を訪問し、現在JICAがミャンマー政府と協同で進めている教科書改訂プロジェクトについて学ばせていただきました。以下、私たちが行った4つの主な活動についての報告をまとめました。

ミャンマー研修2日目、ヤンゴンにあるCampion Jesuit English Institute in YangonとMyanmar Leadership Institute (MLI) を訪れました。Campion Jesuit Institute in Yangonはキリスト教の精神に基づいた教育が英語を学ぶ子どもたちに展開され、授業は英語で行われていました。少数民族の若者も多く、教師も多国籍であり多文化社会と位置付けられるミャンマーの多様性を感じることができました。英語の授業をあらゆるテーマを取り上げながら行い、英語のインプットではなくアウトプットを重視しているように見受けられました。いくつかの教室を周り、学生（特にカチン族）と質問のやりとりをしましたが、勉強に対して意欲的な彼らは、日本の教育や大学の制度などに関心を持っているようでした。Myanmar Leadership Institute (MLI) は、正義、結束、そして貧しい人々への選択肢の価値における社会の変革を担うリーダーとしての能力育成、批判的かつ創造的に物事を考察し得る思慮深いリーダー、献身的に公益を提供していくミャンマー市民の育成、国作り・平和構築そして人権の回復への貢献を民族と人間価値において担っていける専門家の育成などを学校のビジョンとして掲げています。

これらの学校の意味や意義を知ることは、複雑化するミャンマー社会を理解することと繋がっており、ミャンマー社会の中でどのような可能性と重要性を持ち得るか、その位置付けを実際に足を運び、「そのもの」を見ることで感じることもできたことは深い学びとなりました。

ミャンマー研修6日目、タウンジー近郊の貧困地域にある宗教学校において、イエズス会系の高等教育機関であるS.A.G English Language Institute（以下、SAG）の学生と共同でサービスマーケティングを行いました。このような活動は、普段はSAGの学生がインターンシップとしていくつもの地域で英語教育や衛生教育を行っており、今回はそのうちの1か所で、手洗い講習と、折り紙で紙飛行機やカエルを子どもたちと一緒に作る活動をしました。

この活動を通して、貧困地域であるにもかかわらず、子どもたちが英語を学べる環境が本当にあったということに驚きがあったと同時に、家庭が貧しく石鹸を購入できないなどの理由で、衛生管理の重要性を理解しているにもかかわらず、衛生管理ができない状況にあるという、貧困地域、ひいては途上国の現実を実感することができました。

ミャンマー研修7日目は、SAGの生徒たちが行う村の環境調査に同行しました。この環境調査の目的は、その村の川にゴミが捨てられるなどのゴミ処理問題が生じているため、その問題を解決し、持続的に良い環境を作っていくことだそうです。

このプロジェクトは、はじめに村の現状を調査して、その後村人たちに問題を解決するための協力を得て、彼らに村の環境をきれいにしていく教育を行っていくという長期に渡るものだそうです。SAGの生徒たちは村の人々の家を何軒か訪問して村の現状を聞いていました。そして、環境をきれいにしていくために協力して欲しいということも伝えていました。前向きに考えてくれた家庭もありましたが、そうではない家庭もありました。実際の調査現場に入ったことで、教育によってより良い環境を作るために住民の理解や協力を得ることは、重要なことであると同時に難しいことを身をもって感じました。

最終日にはJICAが携わっている教科書改訂プロジェクトチームを訪ねました。従来の教科書との違いや工夫されている点、またどのような形でJICAがこのプロジェクトに関わっているかなどを説明していただき、各教科の作業風景を拝見しました。ミャンマーではこれまでの長い間、全土で共通する教科書を利用してきたため、この改訂プロジェクトがいかにミャンマーの生徒、教師、社会、政治に大きく変化をもたらすものであるかが現場の方々の苦労ややりがいなどのお話を伺うにつれて強く実感させられました。また、工夫されている点を伺うなかでこれまで当たり前と思っていた日本の公教育についても気づきや再発見があり、とても興味深い訪問でした。

主に4つの活動についての報告でしたが、他にも活動とは異なるところで現地の学生や貧困地域の子もたちとの交流を通して参加者それぞれが「そもそも教育とは何であるか」、「自分たちには何はできるのか」、「複雑な多文化社会の中での教育の役割とは何か」などについて改めて熟慮することができ、今後のそれぞれの研究や学びの糧を得ることができました。

最後に、このミャンマーゼミ合宿を企画、計画、アレンジそして引率をしてくださった本ゼミ教授の小松太郎教授、この活動全てに携わってくださった関係者の方々、訪問したミャンマー学校の関係者の方々、そしてこのミャンマーゼミ合宿参加への理解を示してくれた家族に心から感謝の意を表し、この報告書を終えたいと思います。

参加者

A1681034 日比野桜子 (3年生)

A1681394 大村 真帆 (3年生)

A1681815 小林凡央以 (3年生)

A1681931 笹川千晶 (3年生)